

仲間とつないだ襷 たすき — これまでの道のり



2

高校では1500m走をメインに、インターハイにも出場しました。自宅から通っていたため、5時半に家を出て、部活を終え21時に帰宅する3年間でした



1

小学校の持久走大会でずっと1位だったという荻野選手。三和中学校陸上部では800m走で活躍。3年生の県大会で見事優勝を飾りました



4

いい緊張感で迎えたという本番。前半オーバーペースになったため、後半はきつかったと振り返ります。この悔しさをバネに、次回大会で活躍してくれることを願っています



3

大学入学後、2年生で箱根を走るというイメージを持っていたと話します。「練習どおりの走りができた」という予選会では、先輩についていけば大丈夫という思いで走り切り、チームに貢献しました

令和7年度二十歳のつどいにて



今年度二十歳を迎え、式典に出席。フジテレビアナウンサーの木村拓也さんから呼ばれ、急きょ壇上に。大勢の前に「次は区間賞を取ります！」と高らかに宣言し、会場を沸かせました

荻野選手からのメッセージ



努力はすぐに結果につながらないこともありますが、積み重ねは必ず力になります。「継続は力なり」と言う言葉があるように、地道な努力を続けることでいつか成果が出ると信じて頑張ることが大事です。自分自身もより良い未来を求めていきますので、一緒に頑張りましょう！



選手一人一人の努力が
チームの成功につながる。
心強い仲間の存在は大きいです

Profile
2005年6月26日生まれ。
八俣小学校→三和中学校→白鷗大学
足利高等学校→日本体育大学



Ogino Keisuke 箱根駅伝走者 荻野 桂輔 (20歳)

荻野選手にとって、箱根駅伝は小学生の頃からテレビで見っていた憧れの舞台。出場を目指し、歴史と伝統のある日本体育大学に進学します。中学・高校と違い、レベルの高い選手が集まる環境で、練習では週に100キロ以上を走ることも。これまでと違う練習や慣れない寮生活に戸惑いながらも、選手の主体性を重視する指導の下で着実に力をつけてきました。

昨年、日体大はシード権を逃したため、本大会に進むためには10月に行われる予選会を突破しなければなりません。77年連続出場という記録を途絶えさせられない重圧の中、チーム5位の成績でゴールし、出場に大きく貢献。「箱根よりも緊張しました」と笑いながら当時は振り返ります。

予選会からの良い流れの中で迎えた本番、前半は沿道の声援もよく聞こえ、楽しく走れたと言います。ただ後半は自分の走りが全くできなかったと話すとおり、順位を落とす結果に。初の箱根路は、チームに迷惑をかけたという悔しい思いが残るものとなりました。

目標としていた先輩が卒業し、来年は3年生として迎える大会です。新チームを自分が引っ張るといふ強い気持ちで練習に臨む荻野選手。「箱根の借りは箱根で返す」と熱いまなざしで意気込みを語ってくれました。